

「みんなで創り出す“共生のまちづくり”」
生活支援コーディネーター活動報告

「社会福祉法人連絡協議会」ほっとかへんネット設立



専門職（事業団・社協）対象「地域福祉研修」開催



共生型地域交流拠点「はまカフェマリナふらっと」



共生型地域交流拠点「すまいるサロン春風」



西宮市社会福祉協議会 共生のまちづくり課

令和2年3月

～ 目次 ～

I.	生活支援コーディネーター（生活支援C○）の配置経過等	P. 2
II.	生活支援コーディネーターの業務内容と活動件数	P. 3
	令和元年度 第1層（全市域）および第2層（各圏域）の特徴的な活動	P. 5
III.	生活支援コーディネーターの具体的活動	
	1. 新たな支え合いづくり	
	① 地域の「つどい場」づくりの推進	P. 6
	・つどい場交流会	
	・つどい場普及推進研究会	
	・西宮市つどい場ネットワーク	
	地域福祉人材養成事業	P. 7
	・つどい場講座オープン版	
	・つどい場ステップ講座	
	・地域版 地域福祉人材養成事業	P. 9
	（西宮浜地区・香櫨園地区）	
	② 大型お片づけサポートプロジェクト（スーパーお片づけ隊活動）	P. 10
	2. 連携・協働に向けた取り組み	
	① 西宮市地域づくり支援事業関連	P. 15
	② 協力事業者による高齢者見守り事業（西宮市との協働事業）	P. 16
	③ 西宮市社会福祉法人連絡協議会「ほっとかへんネット西宮」設立	P. 17
	④ 大学・NPOとの連携（会議・事業）	P. 18
	3. 「2019 共生社会フォーラム in 兵庫」への協力	P. 18
	4. 西宮市社会福祉事業団・市社協職員対象「地域福祉研修」の協働開催	P. 19
	5. その他	P. 19
	① 広報	
	② 会議・研修等	
IV.	一年間の活動と今後について	P. 20

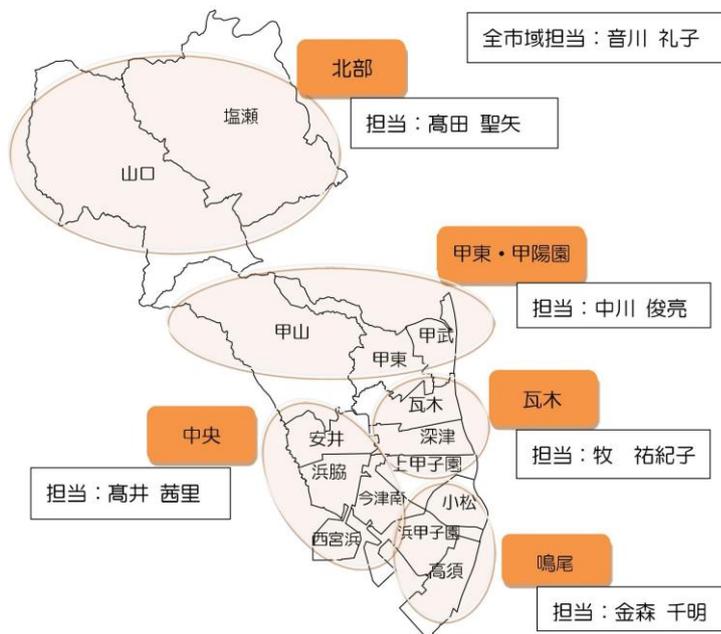
I. 生活支援コーディネーター（生活支援Co）の配置経過等

- ・国の介護保険改正（H27年4月）に伴い、地域における生活支援サービスの充実と高齢者の社会参加を目指し、ボランティア等の生活支援の担い手の養成・発掘など地域資源の開発や、地域の多様な主体のネットワークの構築に向けて配置
 - ・「生活支援コーディネーター設置事業」の委託を受け、初年度（H27年度）の2人配置から年々1人ずつ増員され、昨年度（H30年度）は2人増員で6人配置となり、今年度も第1層生活支援コーディネーターとして1人、地域包括ケア連携圏域（5圏域・下記参照）に各1人ずつの計5人の第2層生活支援コーディネーター体制として2年目の活動となった。
 - ・現在の社会状況や西宮市社協第8次地域福祉推進計画に関連して、高齢分野を中心にしながらも、障がいや生活困窮など地域で生きづらさを抱えている人や世帯等にも視野や活動を広げることで本来の地域の姿である“共生のまちづくり”を目指した。
 - ・生活支援Coの役割としては地域づくり（地域の支え合いに向けた新たな仕組みづくり等）が中心であるが、個人の抱える課題へのアプローチをとおして新たな支えあいの仕組みづくり、地域課題を捉えていく視点も大切しながら取り組みを行った
- 各圏域の地域性に応じながら、そのエリアを担当する地区担当者や専門職や各機関等との連携を促進し、圏域ごとの人材育成を行うとともに、地域住民と協働した拠点づくりの推進を図った。
- また、社会福祉法人の全市における連絡協議会づくりや、各圏域での施設、事業所や企業、店舗等の連携やネットワークづくりにも力を入れた活動を行った。

◎生活支援コーディネーター（以下、生活支援Co）の配置経過と地域状況等

年度	生活支援Co数	地区担当者数	人口	高齢化率	小学校	地区社協	地域包括支援C（うち在介C）	備考
平成27年度	2	6	484,796	22.4	40	34	15（1）	
平成28年度	3	6	485,563	22.7	41	35	15（1）	樋ノ口社協設立
平成29年度	4	6	485,344	23.3	41	35	15	西宮浜在介→地域包括支援Cへ
平成30年度	6	7	485,072	23.6	41	35	15	
令和元年度	6	8			41	35	15	

[地域包括ケア連携5圏域を基本とした生活支援Coの圏域担当状況]



II. 生活支援コーディネーターの業務内容と活動件数

1. 業務内容

主な業務内容（市委託内容）

1. 地域資源の把握・開発
2. ネットワークの構築
3. ニーズと取り組みのマッチング

2. 活動件数

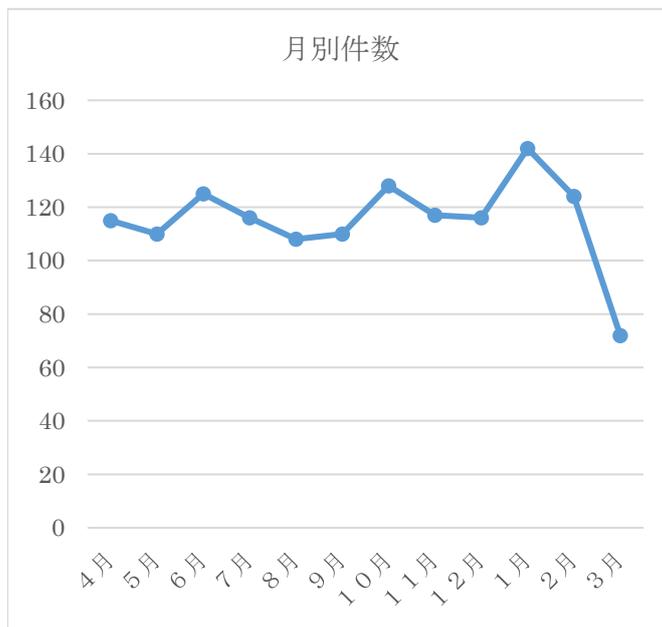
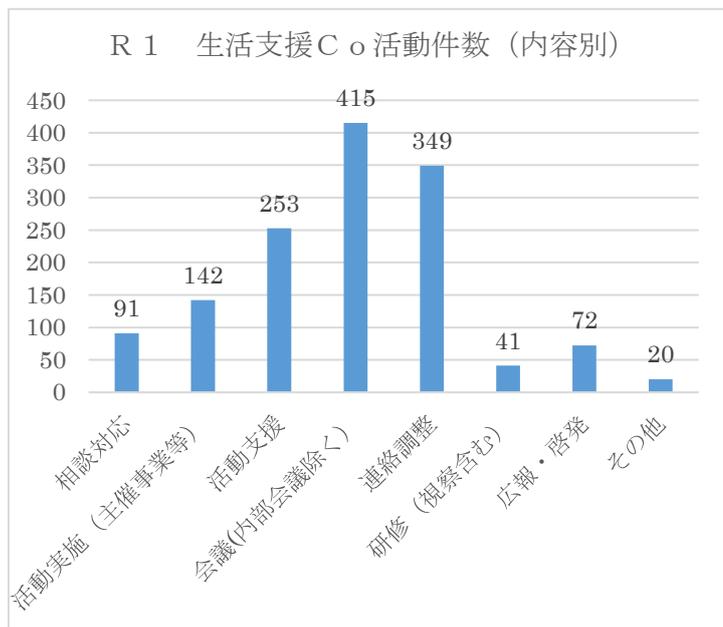
全 1, 383 件 **生活支援C 一人当たりの件数 230 件/年**

○活動内容

活動内容	件数	割合(%)	主な内容
相談対応	91	7%	つどい場立ち上げ、片づけ支援、福祉施設の地域貢献等
活動実施 (主催事業等)	142	10%	各種講座の主催、社福法人連絡協議会役員会等の開催等
活動支援	253	18%	つどい場等の地域活動、大学、NPO 等の活動支援等
会議 (内部会議除く)	415	30%	圏域内での専門職会議、個別支援会議等
連絡調整	349	25%	活動者、団体、福祉施設等との活動に関する連絡調整等
研修 (視察含む)	41	3%	県社協および子ども財団、保健所等の研修に参加
広報・啓発	72	5%	地区研修会等での講義、地区民協等での広報等
その他	20	2%	災害派遣、実習生対応、地域共生館視察・見学対応等
合計	1,383	100%	

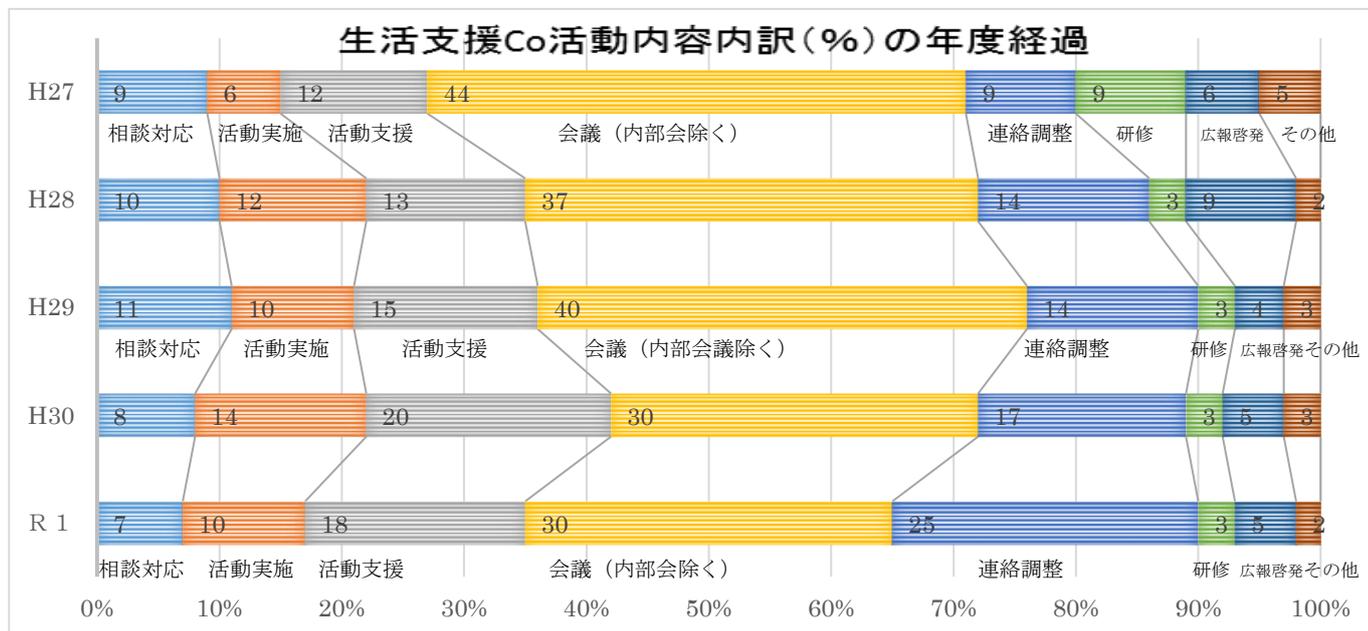
○月別件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	115	110	125	116	108	110	128	117	116	142	124	72	1,383



《参考（H27～H30 年度）》

活動内容	H27 年度		H28 年度		H29 年度		H30 年度	
	件数	割合 (%)						
相談対応	36	9%	47	10%	85	11%	108	8%
活動実施 (主催事業等)	23	6%	54	12%	76	10%	196	14%
活動支援	46	12%	60	13%	111	15%	286	20%
会議 (内部会議除く)	166	44%	174	37%	299	40%	424	30%
連絡調整	36	9%	66	14%	104	14%	243	17%
研修 (視察含む)	35	9%	15	3%	25	3%	39	3%
広報・啓発	21	6%	42	9%	29	4%	78	5%
その他	18	5%	11	2%	22	3%	48	3%
合計	381	100%	469	100%	751	100%	1,422	100%
Co 配置数	2 人		3 人		4 人		6 人	
件数／1 人	1 9 0 件／人		1 5 6 件／人		1 8 8 件／人		2 3 7 件／人	



第1層1人、第2層5人の圏域配置となって2年目となる年度であり、全体の活動件数も昨年をやや上回るペースであったが、新型コロナウイルスによる影響で、地域活動の自粛が始まった3月は活動件数が激減、最終的に1人あたりの活動件数は230件と、ほぼ昨年と同数であった。

令和2年4月、2カ所の「共生型地域交流拠点」の開設に向けて、1～2月の活動件数が増えてきており、今年度、「連絡調整」の占める割合が多かったこともその影響といえる。

令和元年度 第1層（全市域）および第2層（各圏域）の特徴的な活動

第1層（全市域） ネットワークの構築

～「ネットトヨタ」とのつながりからの活動展開～

生活支援C oの事務所がある地域共生館ふれぼのの前の「ネットトヨタ夙川店」とのつながりをとおして、「ネットトヨタ」組織全体と生活支援C oおよび地区担当者等も交えながら「地域課題を話し合う会」を実施した。

地域のお祭りや物販活動等で使えるワゴン車として開発された「リージョナルマーケットカー」の活用事例と一緒に検討するとともに、地域団体等へ貸出しについてのつなぎや広報を行った。

この目新しいワゴン車が地域活性の一つの手段として普及していく可能性だけでなく、市内にある「ネットトヨタ」店舗の空きスペースの活用、障害のある方の中間就労としての協力など、多岐にわたる連携へと視野を広がっている。

また、災害時に車両支援やボランティアの活動拠点としての店舗活用の可能性へも広がっており、一つの店舗とのつながりから全市の恒常的な仕組みに発展していくことを目指して活動を進めた。



～コープこうべ等と連携した高須地域「みんな食堂」～

高層団地が立ち並ぶ高須地域では、多くの活動を地区社協や自治協議会等の既存の団体が盛んに行っているものの、高齢化や少子化が市内でもますます進む地域であることから、新たな人材発掘が急務な状況だった。

生活支援C oがコープこうべや地域内の子育てサークル等との連携を進めていく中で、コープ組合員集会室の使用頻度が他地域より低いことが分かってきた。

また、子育てサークルの方の中には、親子で参加できる地域活動を望む声も聞かれた。

平成30年度にコープこうべや武庫川女子大学等との協議を進め、奇数月の第3金曜夜に「みんな食堂～よっといディ～」という名称で、多世代が参加できる食堂を実施。



偶数月にはコープ委員や活動に参加している親子、大学生が参加して活動の振り返りや次回の内容を企画を進めており、地域の中で少しずつ「みんな食堂」の場は浸透していきっている。

(※第2層活動の「共生型地域交流拠点」立ち上げについてはP. 15に掲載)

第2層（圏域） 地域拠点づくり

第2層（圏域） エリア内の連携促進

～ 地域内福祉施設・事業所等の連携・ネットワークづくり～

全市域の連絡体（社会福祉法人連絡協議会）の立ち上げとは別に各圏域での社会福祉施設や事業所等の連携を進めながら、ネットワーク体としての立ち上げを行った。

甲子園浜地区では高齢者施設とまちづくりを行う団体とを交えて地域課題の解決に向けて話し合う「浜甲トライあぐる」を開始、また、段上地区では「段上地区社会福祉法人情報交換会」をスタートさせ、地域活動との連携を視野に入れながらゆるやかなネットワークづくりを進めている。

北部においては、西宮市地域自立支援協議会ほくぶ会に積極的に関わることで、移動の課題についての協議や福祉施設と地域住民が共同開催する映画会の支援等を行った。

(※第1層活動「社福法人連絡協議会設立」についてはP. 17参照)

Ⅲ. 生活支援コーディネーターの具体的活動

1. 新たな支え合いづくり

1. 地域資源の開発
2. ネットワークの構築
3. ニーズと取り組みのマッチング

①地域のつどい場づくりの推進

個人の家や自治会館、公共施設等を活用して、住民同士が身近に気軽に集まれる場所としての多様な「つどい場」づくりを推進するために、つどい場に関する啓発・相談対応、交流会や研究会の実施、およびつどい場づくりや地域活性に向けた地域人材養成を目指して「全市版つどい場講」「地域版人材養成講座」をおこなった。

つどい場交流会

日 時：令和元年9月25日（水）10:00～12:00

場 所：コープ北口食彩館3階 組合員集會室

内 容：「コープフードドライブ食材配布会×つどい場交流会」

コープ各店舗で集めた余り食材をつどい場へ配布する機会にあわせて交流スペースを設けることで活動者同士の交流を行った

共 催：コープこうべ第2地区活動本部

参加者：11団体（食材配布は代理受け取りも含め合計23団体）



つどい場普及推進研究会

日 時：令和元年12月11日（水）15:00～17:00

内 容：（報告）「つどい場」推進事業や「共生型地域交流拠点の実施状況について

（協議）つどい場を開始する際に必要なこと

（座談会）「つどい場」について思うこと



交流会とフードドライブ食材配布会と合わせて開催することで、生活支援C○が新たなつどい場に声をかけたり、こども食堂とつながるきっかけとなった。ただ、実施する店舗や時期、また交流スペースの持ち方をしっかり考えていく工夫は必要である。フードドライブをとおして、「今津ふくふくサロン」や「まち カフェ なごみ」といった共生型地域交流拠点が、自地域の近隣つどい場や地区社協のサロン等に声を掛けてもらうことで、交流拠点が地域の核となる役割意識を進めていくことにつながった。今後は、地域住民にもフードロスをなくす仕組みである“フードドライブ”がつどい場支援につながることを積極的に広報することも大切と考える。

研究会については、テーマを持った協議形式や座談会を行ったことで、積極的な意見が得られており、次年度には新型コロナウイルスに関連して「つどい場」の意義や在り方について、研究会の中のテーマとして協議したいという声がメンバーから挙がっている。

西宮市つどい場ネットワーク

R2年3月末現在：20カ所登録（新規2カ所）

（新規加盟リスト）

圏域	名称	内容	開催場所
鳴尾	はまかぜ	既存のカフェを活用して、地域住民やオーナーで結成された「甲子園地区につどい場づくりをすすめる会」が開始。月1回、通常カフェ営業しない時間を設けて誰でも来れる場づくりを行っている。	Café ココカラ∞ レンタルスペース
甲東・ 甲陽園	カフェ なないろ	高齢化率が高く、坂道が多い地域の中で、近くで集える場として住民たちで開設	上ヶ原七番町 集会所

新たにつどい場ネットワークに加盟した所は2カ所であったが、生活支援C○が圏域の中で新たに把握したつどい場は10カ所以上あり、その情報は地域資源サイトに入力することで、圏域の地域包括支援センター等と共有をはかっている。ネットワークについては、既存の助成事業と関連する要素が深いため、多くのつどい場の参画を得ながらつどい場全体の普及推進につながるようなネットワークの仕組み検討が必要である。

地域福祉人材養成事業

つどい場講座 オープン版

<第1回>

日時：令和元年10月2日(水)14:00～16:00

場所：西宮市市民交流センター ホール

講師：藤本 遼さん 尼崎 ENGAWA 化計画 代表

参加者：50人

<主な内容>

○講演テーマ「つどい場ってなあに」

- ・つどい場…コミュニケーションが一方方向ではない。参加者間で交流がある。
- ・藤本さんの活動紹介「おふろバー」「amari」「カリー寺」
→余白(活用できる可能性がある空間や物等)を見つけ、関係を作りながら事業を創造する。
付箋に質問・感想を記載し、それを基に全体共有



<第2回>

日時：令和元年10月9日(水)14:00～16:00

場所：西宮市市民交流センター

登壇者：川手 光枝さん つどい場サロン陽だまり（小松地区）

藤川 晃成さん 香櫨園ほっとサロン(香櫨園地区)

進行：生活支援コーディネーター 高田

参加者：38人



つどい場ステップ講座

参加者 5 人（内訳：30 代女性・40 代女性・50 代女性 2 人・50 代男性）

<第1回>

日 時：令和元年 12 月 3 日（火）14：00～16：00

講 師：大岡 栄美さん（関西学院大学社会学部准教授）

場 所：地域共生館ふれぼの

主な内容：オリエンテーション、アイスブレイク

つどい場ははじめの一步（想いの共有）

見てみよう！聞いてこよう！（質問の共有・見学準備）



<第2回>

つどい場視察(日程は活動日に合わせて実施)

- ・こども食堂：ほのぼのキッチン、みやっこ食堂、ともだち食堂
- ・つどい場：つどい場いっぷく、プチキャビン
- ・自治会館（不登校のつどい）：トコトコくらぶ

視察交流会(令和 2 年 1 月 30 日) つどい場さくらちゃん 参加者 5 人+大岡先生

<第3回>

日 時：令和 2 年 2 月 4 日（火）14：00～16：00

場 所：地域共生館ふれぼの

講 師：大岡 栄美さん（関西学院大学社会学部准教授）

主な内容：グループトーク（視察先のつどい場紹介）

つどい場を作ろう！（インタビュー・シート作成）

ポスター報告で共有



「つどい場講座」全市版では、つどい場ステップ講座を受講してつどい場を立ち上げた実践者および生活支援C○が地域の中で発見したつどい場の実践者の2事例を取り上げた。参加者層が新たにつどい場を立ち上げる目的の方が減少しており学習要素が強くなってきている為、この4年間、具体的で分かりやすいと冠に掲げてきた「つどい場」講座であったが、今後の「つどい場」普及に関しては、本講座以外の手段を検討する必要があると思われる。

ステップ講座については、オープン講座と結びつかない形での参加者5人であったが、「こども食堂をしたい」「障害のある方と共生できる居場所づくりがしたい」といった具体的な思いをもった参加者ばかりであった。講座の中で、急きょ、講師を含めた全員での「つどい場さくらちゃん」の視察交流会を行ったところ、「つどい場」の魅力を感じとることに加えて、参加間の交流も促進され、新たな「つどい場」の開設にもつながっている。

「こども食堂」については、相談窓口が市より別財団に委託されているが、その担当者とも連携しながら、地域に根差した活動が始められるようなサポートを行っていく。

地域版 地域福祉人材養成事業

<西宮浜地区「まちづくり楽校」>

趣 旨・西宮浜地域での交流拠点立ち上げに向けた地域住民への周知
・新たな協力者の発掘と拠点づくりへの参画呼びかけ

広 報 趣旨説明・チラシ配布

・マリナパークシティ協議会 ・各まちの理事会
・各活動（西宮いきいき体操、サロン、つどい場など） ・校区民生委員会

※各まちには積和不動産を通じて全戸配布（URは別途配布）

チラシ配架（ポスター掲示）・コープマリナ店、西宮浜公民館、飲食店、西宮浜小・中学校

内 容

日 時：令和元年9月14日(土)10:00～12:00

場 所：西宮浜公民館 講堂

主 催：西宮マリナパークシティ協議会

共 催：西宮市社会福祉協議会 西宮市教育委員会

参加者：28人

[内訳：住民20人（県営2・市営0・海1・杜4・桜4・花5・港0・戸建て2・丘1・不明1）

関係者：8人（恵泉3・学校関係2・行政1・その他2）]

テーマ：『西宮浜での常設のつどい場について』

ゲストスピーカー：マリナパークシティ協議会 木村 勇一会長

市社協 生活支援コーディネーター 高井

コーディネーター：浅見 雅之先生（合同会社 人・まち・住まい研究所 代表社員）

グループワーク

・自己紹介 ・こんな居場所であってほしい ・私ならこんな関わり方ができる
ボランティア登録案内 ※交流拠点ボランティアミーティング12人参画



長い間、地区社協の組織化が進まなかった経過のある西宮浜地域で、共生型地域交流拠点づくりと並行して「まちづくり楽校」を開催できたことで、新たな人材発掘と居場所づくり参画への流れにつながった。講座をとおして、居場所づくりについての関心の高さや活動への積極性が分かり、改めて交流拠点の必要性を後押しできるものとなった。

また教育委員会との共催により、既存の講座に重ねた形で実施することで、西宮浜でのまちづくりの動きの1つとして居場所づくりを認識してもらう機会にもなった。

<香櫨園地区「こうろえん居場所トーク」>※新型コロナウイルスにより中止（次年度に延期予定）

趣旨・香櫨園地域における居場所づくりに向けた人材発掘

- ・企画をとおして自治協議会など既存の活動者の居場所づくりに関する理解促進を図る

広報 チラシ配布

- ・香櫨園地域内全戸配布
 - ・香櫨園地区団体連絡協議会、地区社協役員会、青愛協、つどい場実践者等に個別配布
- チラシの配架（ポスター掲示）
- ・各自治会掲示板、香櫨園市民センター、建石保育所、香櫨園幼稚園、子育てひろば
 - 郵便局、コープ香櫨園店、中央図書館

内容(予定)

日 時：令和2年2月29日(土)13:30～15:30

場 所：香櫨園市民センター

主 催：香櫨園地区団体連絡協議会

共 催：西宮市・西宮市社会福祉協議会

講 師：大岡 栄美先生（関西学院大学社会学部 准教授）

申込者：36人

新型コロナウイルスにより、残念ながら上記の香櫨園地域他、開催検討を断念した甲東地域等もあるが、講座という明確な目標を目指しながら協議や打ち合わせを行ってきた経過の中で、地域の気運が高めることができていた。

次年度以降、講座という事業実施だけにとらわれず、地域の居場所づくりやエリア内の諸団体のネットワークづくりを進める視点を持ちながら、地域住民と共に開催検討していきたい。

② 大型お片づけサポートプロジェクト

（スーパーお片づけ隊活動）

1. 地域資源の開発
2. ネットワークの構築
3. ニーズと取り組みのマッチング

※プロジェクト開始から5年が経過することから、別途、報告書を作成した為、本報告書には主に令和元年度分を掲載

認知症や発達障害等の個人の状況に加えて、制度の狭間や社会的孤立、生活困窮等が要因となってゴミ屋敷化している世帯等への支援の仕組みとして「大型お片づけサポートプロジェクト」を平成27年度に立ち上げた。

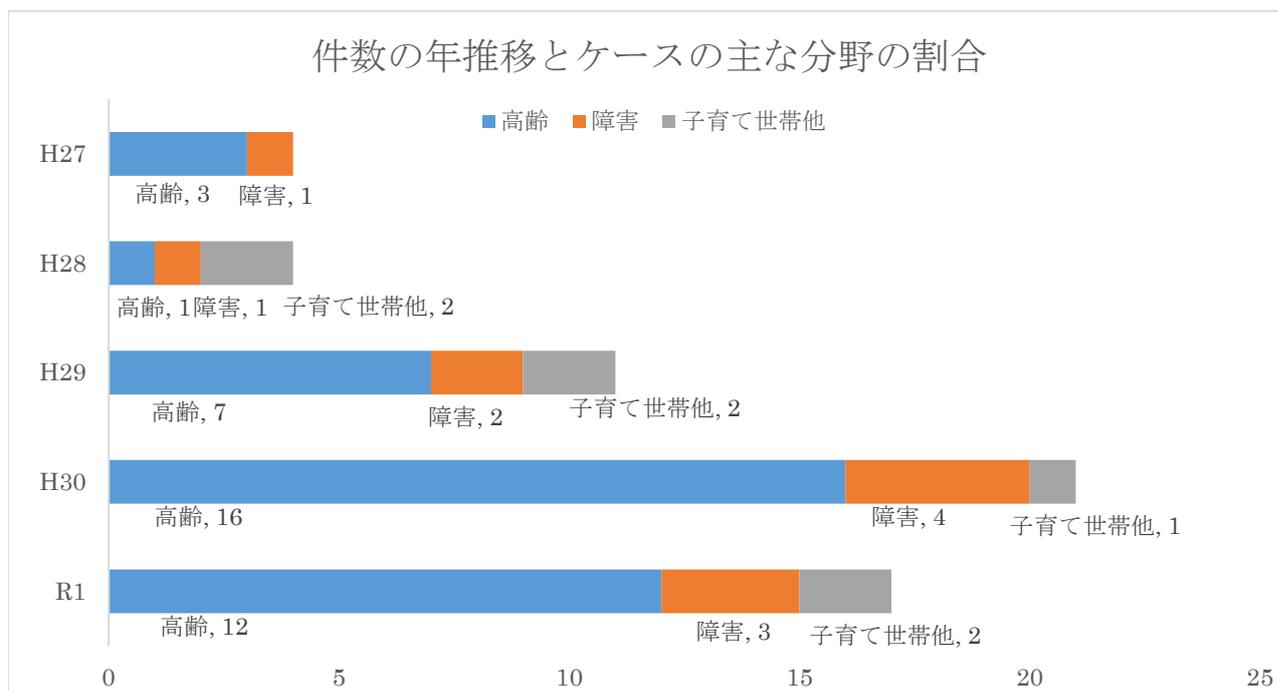
既存の地域活動「お片づけ隊」を参考にしながら作り出したゴミ屋敷支援のボランティア活動の仕組みである「スーパーお片づけ隊」を実際に動かすことで具体的な支援（掃除）活動を行いながら、本人・家族を中心にしながら、専門職や地域住民、行政等を交えての支援の輪づくり（ネットワーク）の構築を目指している。

プロジェクトが目指すこと

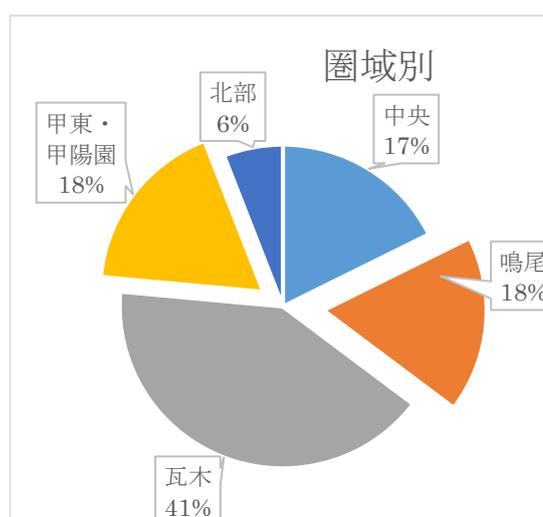
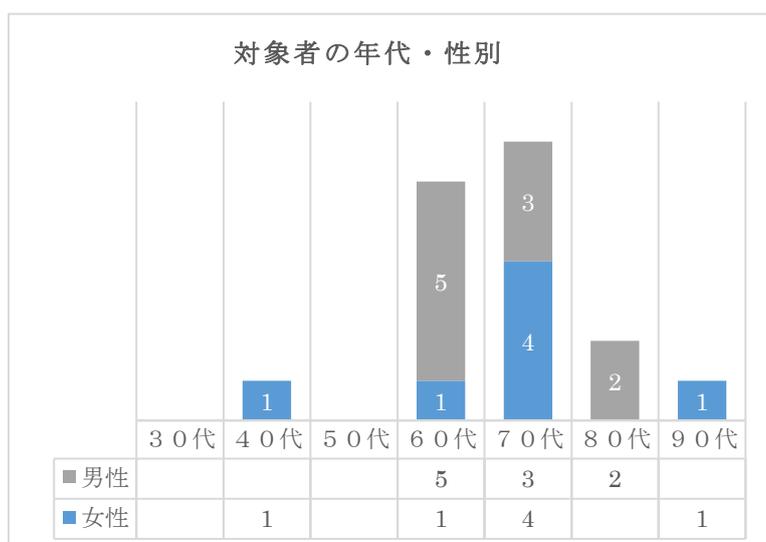
「ごみを取り除くことによる“地域とのつながり直し”の支援と、ゴミ屋敷化を繰り返さないための専門職および地域住民による支援・見守り体制づくり」

◎年度別新規ケース数とその圏域

年度	新規ケース数（主な分野）	圏域
H27 年度	4（高 3・障 1）	鳴尾 2 甲東・甲陽園 1 瓦木 1
H28 年度	4（高 1・障 1・母子 2）	中央 1 鳴尾 1 甲東・甲陽園 1 瓦木 1
H29 年度	11（高 7・障 2・世帯 2）	中央 4 鳴尾 5 瓦木 2
H30 年度	21（高 16・障 4・父子 1）	中央 4 鳴尾 10 甲東・甲陽園 1 瓦木 4 北部 2
R1 年度	17（高 12・障 3・母子等 2）	中央 3 鳴尾 3 甲東・甲陽園 3 瓦木 7 北部 1
合計	57	中央 14 鳴尾 21 甲東・甲陽園 6 瓦木 15 北部 3

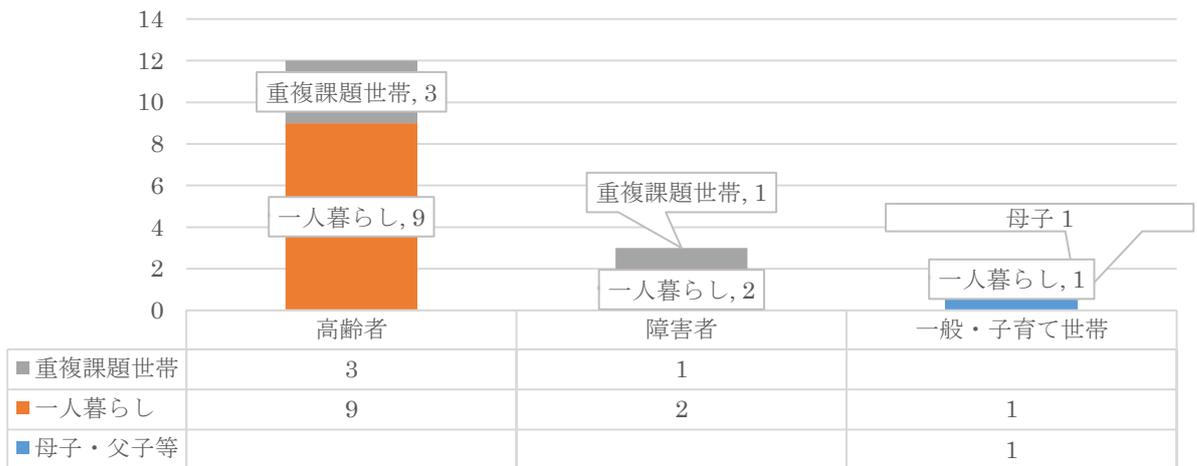


◎令和元年度新規ケース 17 件の状況



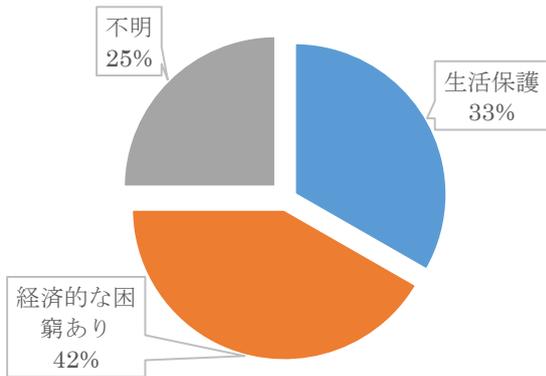
今年度は総数が17件であり、昨年度より少し減少しているが、そのうち7件が瓦木圏域と圏域に偏りがみられた。対象者としては60歳代の男性が一番多く、続いて70歳代女性と続いている。

世帯の状況

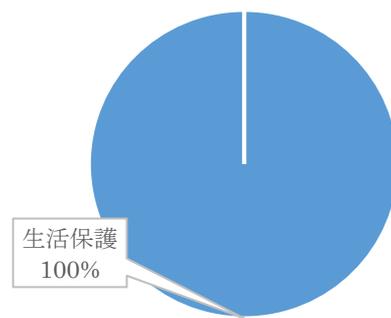


※重複課題世帯とは、高齢者と障害者の世帯、「8050（7040）世帯」等である。

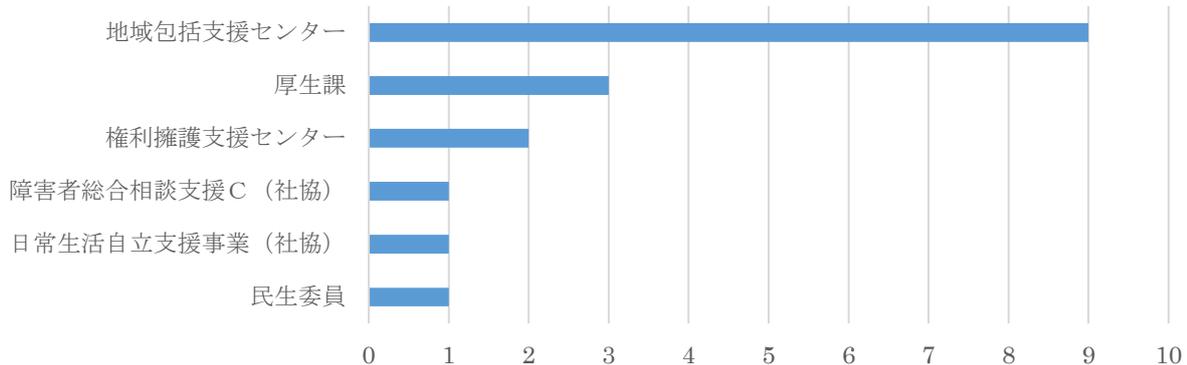
生活状況（高齢者）



生活状況（障害・母子・一般）



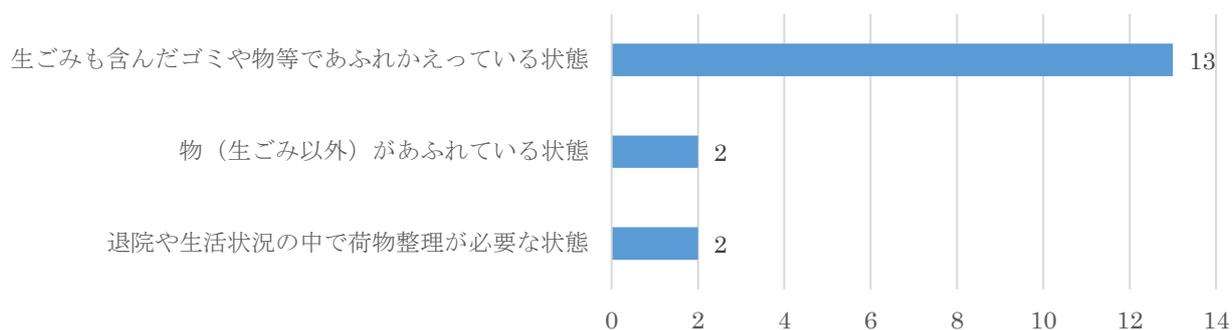
相談経路



高齢者のうち、3分の2は一人暮らし高齢者であり、残りの3分の1が「8050」、「7040」世帯であった。

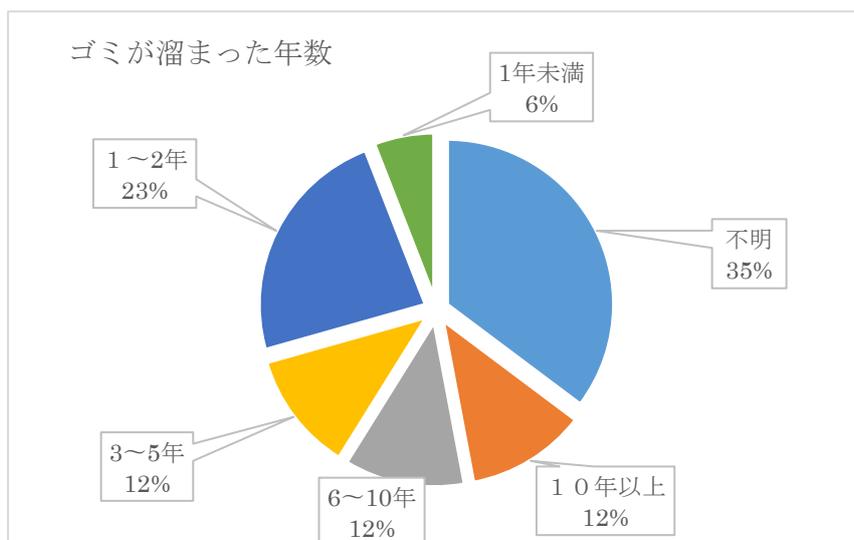
全体的の約半数が生活保護世帯、障害者・母子・一般世帯はすべて生活保護世帯であり、厚生課からの相談ケースも増えている。金銭だけでなく、複雑な問題を抱えたケースもあるため、行政の担当機関や社協内外の各専門機関（専門職）との連携が必要なケースも増えていた。

家の状況



○ごみが溜まった年数

年数	件数
1年未満	1
1～2年	4
3～5年	2
6～10年	2
10年以上	2
不明	6

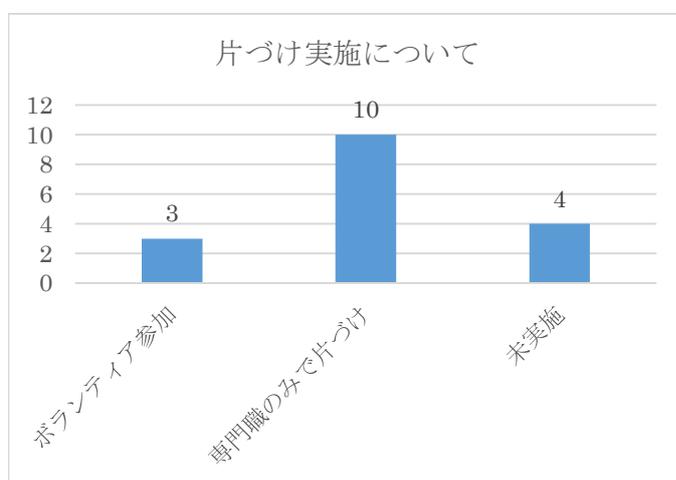
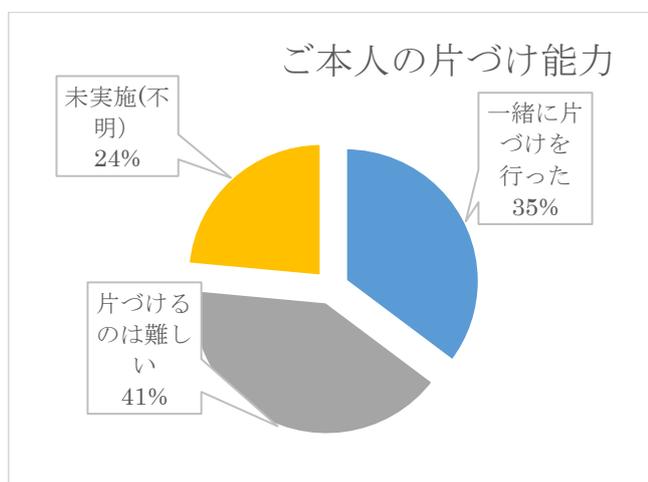


○ご本人の片づけ能力

状況	件数
一緒に片づけを行った	6
一緒に片付けは可能	0
一緒に片づけることは難しい (体力低下・入院中等)	7
不明（未実施等）	4

○片づけ実施状況について

状況	件数
スーパーお片づけ隊参加	3
専門職のみで片付け	10
未実施	4



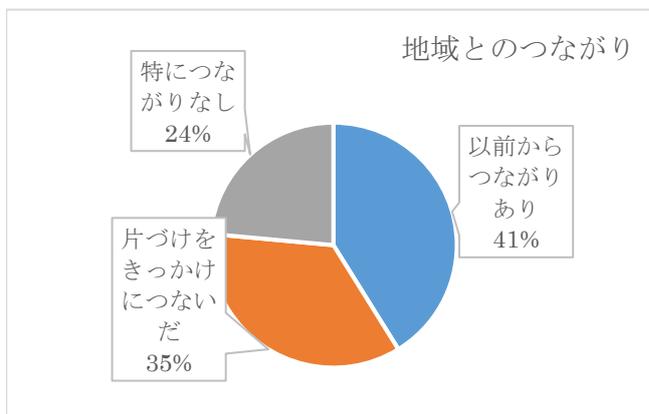
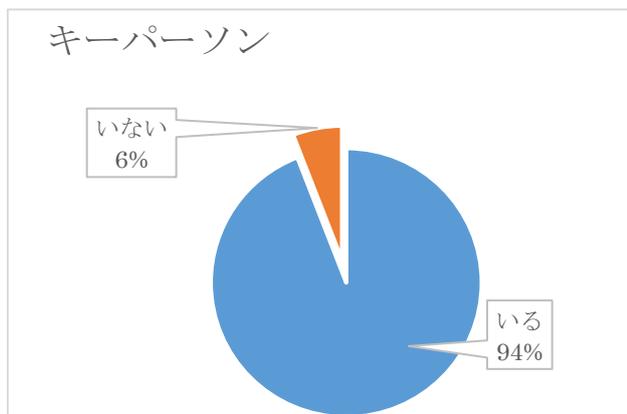
全 17 件のうち、4 件についてはご本人および同居家族の理解が得られていないため、専門職での会議のみで、実際の片づけの介入はできなかった。片づけ支援を行った 13 件のうち、半数はご本人も一緒に片づけを行っており、ご本人、家族だけではどうしても出来なかった状況であったことが窺える。また、衛生上の問題やご本人との関わり方の難しさから、ボランティアの協力を得られたケースは 3 件に留まっている。

○キーパーソン

状況	件数
いる	16
いない	1
不明	0

○地域とのつながり

状況	件数
以前からつながりあり	7
片づけをきっかけにつないだ	6
特につながりはない	4



キーパーソンとしては、家族・親戚等ではなく、地域包括支援センター職員やケアマネジャー、厚生課ワーカー等の専門職が多いため、いずれも長期の経過や生活状況の把握が難しいこともあり、お互いに連携しながら支援を進めることが必要である。

地域の民生委員・児童委員等が気にかけてくれていたがケースも半数弱あったが、片づけをきっかけに地区VCに見守りを依頼したケースもある。

共生型地域交流拠点（ふれぼのカフェ）への日常的な来所者が認知機能低下により片づけが必要になったケースもあったが、日常的なネットワークができていて、地域包括支援センター等の専門職と一緒に連携して支援を行った。



生活ゴミが溜まっている家（上）や、退院時に荷物の整理が必要な家（右）など、片づけが必要な理由は多様化している。

2. 連携・協働に向けた取り組み

1. 地域資源の開発
 2. ネットワークの構築

①西宮市地域づくり支援事業関連

○共生型地域交流拠点 令和2年4月 新規2カ所開設に向けた取り組み

名称	地域	開設に向けた経過（生活支援 Co の取り組み）等
はまカフェマリナ ふらっと	西宮浜地域	<ul style="list-style-type: none"> ・自治協議会会長に交流拠点の説明（H30.7月） ・居場所づくり話し合いの開始（H30.9月～） ・さくらまつりコミュニティカフェ実施（H31.4月） ・交流拠点準備会（法人参加）開始（R1.8月～） ※まちづくり楽校（P.8）開催（R1.9月） ・ボランティアミーティング開始（R1.10月～） ・市補助金申請書提出・決定（R1.12月） ・はまカフェマリナ運営委員会の開始（R1.12月～） 開所式予定（R2.4.5）…新型コロナにより延期
すまいるサロン春風	春風地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協代表者会議での事業説明（H30.4月） ・地区ネットワーク会議での協議開始（H31.4月～） ・地区社協理事会への報告（R1.5月） ・運営者会議の開始（R1.10月～） ・市補助金申請書提出・決定（R1.12月） 開所式予定（R2.4.3）…開所式のみ行い、新型コロナによりカフェは当面に間、休止（R1.3月～公民館も休館のため、地区社協のふれあい配食の拠点として活用）



○共生型地域交流拠点（市内3カ所）関連会議等への参画

名称	地域	生活支援 Co の参加会議等
まちcafeなごみ	鳴尾東地域	運営委員会 鳴尾東地域における生活支援を考える会議 「まちの見守り隊」PJ in 鳴尾情報交換・交流会
今津ふくふくサロン	今津地域	プロジェクト会議 関係者会議
地域共生館ふれぼの ふれぼのカフェ	安井地域	カフェミーティング 地域共生館推進協議会

○「共生型地域交流拠点 拠点運営者研修」の実施

新しく開設される2カ所の拠点運営者と既存の「共生型地域交流拠点」で新しく拠点運営者になる方を対象にした「拠点運営者研修」を実施した。拠点の本来意義や役割、運営者として大切にすべき視点を学べる機会として、講義に加えて拠点での実習や参加者同士の情報交換に重点をおく研修とした。

日 時：令和2年2月10日（月）13:00～16:00

参加者：すまいるサロン春風5人 はまカフェマリナふらっと2人
まちカフェなごみ2人

（ふれぼのカフェ拠点運営者1人、有償サポーター1人）

場 所：ふれぼの2階 多目的ホールおよびふれぼのカフェ



新規開設2カ所で予定している「拠点運営者」は全て受講でき、実習をとおしてカフェに来る地域住民が役割をもった参加者であるということが実感できる機会となっていた。

後半の情報交換では、ふれぼのカフェの拠点運営者や有償サポーターから、カフェ業務よりも参加者同士をつなぎ合わす視点をもつことの大切さを身近に聞くことができ、カフェ運営に不安を感じていた参加者も、改めて運営者としての自身の役割を考えることができていた。

○「共生型地域交流拠点」開設に向けての取り組み状況（既存、新規開設の5地区を除く）

香櫨園地区・・・市民センター活用の協議、地域人材育成講座の企画等

芦原地区・・・地域内会館を活用したサロン「バルーン」の開始等

平木地区・・・地区社協、青愛協等とが協働した拠点づくりの検討開始

鳴尾北地区・・・拠点づくりに向けた協議の継続

南甲子園地区・・・つどい場実践者と地区社協との協議開始

甲東地区・・・地域内拠点「Monnmae」の実施とその継続に向けた検討開始

生瀬地区・・・地区NW会議等での協議の継続

北六甲台地区・・・地域全体のNW会議での検討開始、フォーラムでのテーマ化等

1. 地域資源の把握・開発
2. ネットワークの構築

②協力事業者による高齢者見守り事業（西宮市との協働事業）

新聞配達や宅配等の事業者および店舗や病院・薬局等の協力（事業登録）により、地域で暮らす高齢者等の異変を発見した場合に地域包括支援センターへの通報連絡をすることで早期に支援につなげていくためのネットワーク構築を行った。

登録事業者：112事業所(31事業所増)

通報年間件数：4件

見守り連絡会：令和2年3月4日(水) ※開催予定であったが新型コロナウイルスにより中止

前年度の「見守り連絡会」において、本事業についての従業員周知（理解）が難しいといった声があったことから、「従業員向けチラシ」の作成に向けて市担当者と協議を進めるとともに、「見守り連絡会」で参加者に意見を聞く機会を持つ予定であったが中止となった。事業報告とともに簡単なチラシ送付を行ったが、新型コロナウイルスの影響により、高齢者の在宅が増えるとともに、宅配事業の需要が増えることが予測されるため、事業所の協力をさらに推進していくとともに、鳴尾東地区の「まちな見守り隊PJ」のような小地域内でのネットワークづくりを進めていくことが必要である。

③ 西宮市社会福祉法人連絡協議会「ほっとかへんネット西宮」設立

1. 地域資源の把握・開発
2. ネットワークの構築

市内の社会福祉法人の連絡体づくりを目指して、平成 28 年度から開始した施設ヒアリング、地域貢献に関するアンケートの実施をとおして昨年度に「社会福祉法人連絡協議会」設立準備会を 6 法人の参画を得て結成して協議を進めてきた。

準備会での規約、役員構成等の協議を経て、全社福法人に呼びかけを行い、令和元年 7 月に連絡協議会「ほっとかへんネット西宮」を設立、初年度の事業として 11 月には研修・情報交換会を行った。

○ 設立総会および記念講演

日 時 令和元年 7 月 24 日(水)14～16 時

場 所 西宮市職員会館 3 階大ホール

参加法人 28 法人

来 賓 西宮市長、兵庫県社会福祉協議会 事務局長

内 容 設立趣意書、規約、役員体制、事業計画、予算の承認

記念講演 テーマ「地域における社会福祉法人の役割

～ほっとかへんネット西宮に求められること～

講師 関西学院大学 人間福祉学部 教授 藤井 博志先生



○ 研修・情報交換会

日 時 令和元年 11 月 14 日(木)14～16 時 30 分

場 所 西宮市役所 8 階大ホール

参加者 20 法人 44 人

内 容 研修：社協区組織と地域活動等の紹介 生活支援コーディネーター 音川

事例発表：甲子園浜地区における居場所づくり・福祉巡回バス

社会福祉法人 円勝会 シルバーコースト甲子園 河本課長 林係長

第 2 シルバーコースト甲子園 原主任

高齢者あんしん窓口浜甲子園 橋本センター長

情報交換：7 グループに分かれての情報交換

テーマ「“地域とのつながり”に関する取り組みや課題」

「ほっとかへんネットで取り組みたいこと」



昨年度から準備会で進めてきた「連絡協議会」については、市内半数強の法人の参画ではあったが設立することができ、初めての事業としての研修・情報交換会についても分野を超えた情報交換の機会として、連絡体の必要性を改めて感じる場となった。

情報交換会では、「災害時のネットワーク」「福祉人材の育成」「地域とのつながりある活動」等の内容に関心が高かったため、次年度からは委員会活動を発足してそれらの協議を深めていく予定である。

また、全市ネットワークと並行して、甲子園浜地区や段上地区のような地区社協エリアでの福祉施設・事業所のネットワークづくりを進めていく。

④大学・NPO との連携（会議・事業）

- 1. 地域資源の開発
- 2. ネットワークの構築
- 3. ニーズと取り組みのマッチング

大学・NPO 等	PJ・ネットワーク名	生活支援 Co の取り組み等
武庫川女子大学	鳴尾地区高齢者健康支援ネットワーク	全体会議 部会会議（音楽・体操）回 一人ぐらし高齢者応援フェスタ等へ協力
関西学院大学 社会学部 NPO法人 日本災害救援ボランティアネットワーク	東日本大震災県外避難者支援活動（KSN プロジェクト）	新規学生への講義および打ち合わせ 事業（キャンプ・クリスマス会）実施
西宮市大学交流協議会 NPO法人 コミュニティ事業支援ネット	大学連携学生プロジェクトチーム（NCP）	定例会参加 企画（多世代交流イベント）協働実施 

3. 「2019 共生社会フォーラム in 兵庫」への協力

- 2. ネットワークの構築

厚生労働省から委託を受けて滋賀県の糸賀一雄記念財団が全国5カ所で実施している共生社会フォーラムについて、今年度、西宮での開催予定計画があったことから、企画から協力した。

ほっとかへんネット西宮が7月に発足したことから、加盟している障害者分野の社会福祉法人に声を掛けることができ、肢体障害者協会、手をつなぐ育成会の2当事者団体および行政3課（地域共生推進課、障害福祉課、生活支援課）の15団体による開催委員会を立ち上げ、広報や当日運営に大きな協力を得ることができた。

〈フォーラム〉

- 日時 令和元年11月26日(火)、27日(水)
- 場所 西宮市立勤労会館・西宮市総合福祉センター
- 主催 公益財団法人 糸賀一雄記念財団
- 共催 共生社会フォーラム in 兵庫開催委員会
(社福法人10・当事者団体2・行政3課)
- 参加者 166人 (一般69・福祉職従事者16・新任者4・
当事者30・関係法人等47)
- 内容 講演、表現活動(和太鼓・音楽)、
語り部養成ワークショップ、交流会等



〈第1回開催委員会〉

- 日時 令和元年10月29日(火) 13:30~15:00
- 場所 西宮市総合福祉センター

※第2回開催委員会(報告会): 令和2年3月23日(月) 新型コロナウイルスにより中止

4. 西宮市社会福祉事業団・市社協職員対象「地域福祉研修」の協働開催

県社協の地域福祉研修の参加をきっかけに、西宮市社会福祉事業団から相談を受け、地域包括支援センター職員および市社協職員が地域を学ぶ研修会を協働企画・開催した。

開催にあたっては、共生型地域交流拠点「まちc a f eなごみ」の拠点運営者であり地域人材育成にも取り組んでいるNPO法人なごみの田村事務局長に企画から入ってもらった。

田村氏の地域に根差した活動事例紹介や地域協働の視点・工夫等を学び取る研修内容に加えて、地域包括支援センターの3職種に社協職員も混じることで、多職種の意見を折り合わせるワークに重点を置いたプログラムを模索しながら実施した。

テーマ「地域への入り方・交ざり方」

講師 NPO法人なごみ 事務局長（一般社団法人このまちづくり）田村 幸大さん

《第1回》

日時 令和2年1月20日(月) 14:00～16:00

場所 地域共生館ふれぼの

参加者 32人（事業団24・社協8）

《第2回》

日時 令和2年2月17日(月) 14:00～16:00

場所 西宮市総合福祉センター

参加者 25人（事業団19・社協6）



5. その他

① 広報

- 生活支援コーディネーター情報誌「Wi' th」の発行
（偶数月発行：6回 各2,000部発行 HP掲載）
- つどい場事例集「つどい場のチカラ」発行(1,000部)
- 社協広報紙「しあわせ」共生のまちづくり特集（11/25号）
社福法人（福祉施設）と地域の連携事例の紹介

② 会議・研修等

- 「権利擁護・総合相談支援体制」検討会議（市社協内）参加
- 兵庫県社会福祉協議会 地域福祉研修の講師および運営会議への参画
- 阪神間（7市1町）生活支援コーディネーター研究会2回
阪神間（7市1町）生活支援コーディネーター情報交換会1回（2/13）
- サポートネット（中央・瓦木・鳴尾）への参加
- 西宮市地域自立支援協議会（みやっこ会議）への参画（ほくぶ会・こども部会）
- 普及・啓発活動（各地域や大学等における研修講師等）
- 各種研修、個別支援会議等の参加
- 地区担当者との連携会議、事例検討会、専門職との情報交換会 等

IV. 一年間の活動と今後について

☆ 「社会福祉法人連絡協議会」の具体的な活動推進と

小地域における福祉施設等（法人）のネットワークづくりについて

第1層生活支援 Co1人が全市域を担当、第2層生活支援 Co5人がそれぞれ西宮市の地域包括ケア連携5圏域の圏域担当制になって2年目の活動であった。

3年前から具体的に進めてきていた社会福祉法人連絡協議会の設立については、52法人（R1.7月現在）のうち28法人の参画と半数強に留まったが、高齢・障害・児童（保育）分野の多分野の法人の参画が得られたことで、初の事業として行なった研修・情報交換会でも新たな気づきや分野を超えたつながりが出来てよかったという声が多く聞かれた。

次年度以降、参画法人を増やす取り組みを会員同士で工夫しながら行うとともに、連絡協議会として具体的な活動を進めていくための委員会活動を発足させていく。

また、連絡協議会の連絡体制の構築を進めることで、災害時にも機能できるとともに、今回の新型コロナウイルスに関連して情報共有が行えるようにしていきたい。

あわせて、第2層生活支援 Coが小地域での福祉施設・事業所等のネットワークづくりに取り組むことで、それぞれの地域性に応じた活動展開を目指していく。

☆ 地域福祉人材養成の見直しと市社協内のつながった展開について

現在の活動者だけでは地域活動が立ちいかなくなる状況への懸念から、まちづくり等の視点をもった人材発掘を目指して行ってきた全市版「つどい場講座」であるが、4年目の開催を終えて本講座では新たな地域人材の掘り起こしにつながることは難しいと思われる。

平行して行ってきた地域版の人材養成事業については、拠点づくりと連動して開催することの効果も見られているため、小地域にエリアをシフトしながら実施していきたい。

また、地域福祉に関わる人材としては、専門職の力量をあげていくことも一つの手段であるため、今年度に初めて行った「地域福祉研修」を、参加対象を広くしながら開催していきたい。

市社協内の他部署でも認知症サポーターやあいサポーターなどの人材養成を行っている事業があるため、市社協の「共生のまちづくり研究・研修所」の実体化、および内部の連携促進をとおして「総合相談支援体制の構築」に向けても積極的な関わりが必要と考えている。

☆ 地域住民と共に作る「共生型地域交流拠点」とこれからの「つどい場」について

平成30年度から市補助事業として全市普及を開始した「共生型地域交流拠点」については、1年以上の地域との協議や具体的支援をとおして、2カ所の開設へとつながった。地域の常設拠点づくりを目指している地域も数地区あるため、次年度からも地域住民や諸団体、法人等とも一緒に活動を進めていくことで、地域活性や人材育成につなげていきたい。

また、交流拠点だけでなく、身近なつどい場を増やしていくために、今年度発行した事例集の活用するとともに、こども食堂や認知症カフェといったテーマ型つどい場とのネットワークの在り方を検討していきたい。

特に、新型コロナウイルスの影響により、人の集まりを避けざるを得なくなった社会状況の中で、「つどい場」実践者の思いや力を結集することで、これから出来ることを模索していきたいと思う。